

1 実施日 令和3年3月 書面にて実施

2 評価基準

A:良くてきている B:ほぼできている

C:あまりできていない D:全くできていない

評価の観点(領域)	A	B	C	D
学校評価	4	2	0	0
教育課程	5	1	0	0
課題教育	5	1	0	0
総合	4	2	0	0

(数字は、人数)

3 ご意見(抜粋)

(1) 学校評価について

・各部各学年の具体的目標及び取組で、唯一の2がコロナ禍で修学旅行の中止のやむを得ない事情で、他は全て堅実な取り組みがなされていると思われます。また進路状況で東京大学合格は良かったです。次にアンケートの生徒の欄で「相高に入学して良かったか」の項目が3年になるほど上昇しているのが何よりです。また保護者職員ともR1よりR2の方が達成度が上がっているのは、先生方のご努力と存じます。

・「保護者による学校評価アンケート」からは、保護者の相高への信頼度の高さがうかがえる。また生徒の評価は学年が進むにつれてよくなっていることに感心した。

・生徒アンケートについて、一年生は相高に期待・希望を抱き入学してきたと思う。また高校に入学したとき、中学の時とあらゆる面での比較が常になされていたと思う。最終的に相高に入学して良かったと思えばよいとは思いますが、期待し頑張って入学した1年時も、相高にしてよかったと思えたらいいなと思う。

・兵庫県が行っているポストコロナ社会に伴って学校生活も新しくなっていく中、諸々の行事も制限され、資料を拝見して学校側の対処など最良だと思っております。先生方のご苦労も見て取れました。

・生徒・保護者のアンケートを見てもほとんど達成されていてとても前向きだと思います。

(2) 教育課程について

・今年から導入された大学入学共通テスト、また令和4年度から実施される新学習指導要領、加えて西播中播が統合された第4学区という広域学区の中で、多様性のある人格を育みながら、昭和52年に市民の願いとしてその負託に応え出発した進学校としての相高の基盤を、より堅実にされてこられた教育課程を高く評価させていただきます。

・コロナ禍での活動のため従来通りではなく新たな発想や工夫をしたことで教職の意識向上や授業力向上につながったと信じたい。

・教育課程を立てるのも大変だったと思いますが、個に応じた学習指導が徹底され、結果が進路状況に出ていると思う。

・選択授業を多くしているのは大変良いと思います。教職員と保護者アンケートで差が少しあるのが残念です。

・大学入試制度が大きく変化する中で先生方が色々と工夫している様子がうかがえます。

(3) 課題教育について

・相生高校における課題教育も多岐にわたると存じますが、一つには「自然科学コース」の特色のより一層の明確化ではないかと思われます。また冊子内に見る「高大接続推進事業」もリモート等活用され実施されたことは素晴らしいことと存じます。また「インスパイアハイスクール事業」・「高校生就業体験事業」・「高校生ふるさと貢献・活性化事業」等、様々な課題教育に取り組まれていることを嬉しく思います。

・教育課程と同様で新たな工夫が先生方の高評価につながっているように思う。

・コロナ禍で、すべての教育環境が一変したと思われませんが、特に生徒にどのように情報ネットワークの活用を身に着けさせるかが課題だったと思います。苦手な子もいれば得意な子もいる中で、先生方も生徒もよく頑張られたと思います。

・「神戸大学の留学生と話そう」が毎回とても楽しみで資料を見ております。英語の力をつけるのに大変有効だと思います。

(4) 総合

・総合的に見まして、生徒・保護者・教職員ともども三位一体となって相生高校を盛り上げていただいていることを嬉しく思います。私も、創立20周年の頃に在職し、『輝』という「20周年記念誌」の編集を担当しましたが、生徒が記念式典の司会を担当しました。周年行事への生徒参加の魁であったと思われれます。そのころから進学校としての頑張りはもちろんですが、生徒の自主性を重んじる現在の流れができたのかとも思っています。

・コロナ禍での学校運営、生徒のモチベーション維持と本当に難しい一年だったと思う。この状況はまだ続くと思われる。評議員会資料の表紙にあるように、ポストコロナの新時代に挑み続けてください。

・今年度は、コロナ禍の中、生徒たちは周囲を理解し、適応していたように思う。登下校の様子を見てもはしゃぎ大声を出して歩く者もなく、ルールを守った行動をとっていたように思われる。

・先生方は、突然のコロナという感染症が起き、指導方法などが一変したと思われれますが素早い対処で生徒に対応されたこと素晴らしいと思いました。本当に大変な1年だったと思いますがご苦労様でした。

・学校側もコロナ禍で大変ご苦労が多い中、帰り道も楽しそうに帰宅している子供達を見ていると、適切な学校生活だと思えます。

・コロナ禍の中で生徒一人ひとりに対して忙しい中対応している様子がわかります。生徒と先生方が一つにまとまり乗り切れた1年だと思いました。

(5) その他

・かつて相生市には市立相生高校がありました。造船不況等もあり、市として維持できなくなり、県立相生工業高校に吸収され相生産業高校の中の普通科として存続していましたが、市民の熱い要望で相生高校は誕生しました。近隣の普通科に負けないよう、進学に力を入れその成果は着実に上がってきました。最近ではその実績に立って、地域の学校として様々な貢献をされています。矢野町音楽祭にも相高放送部の司会はずでに定着しています。勉強や進学は勿論のことですが、地域に開かれた高校としてさらなる発展を期待しています。

・生徒会による「三密は避けでも心は密に」というスローガンを市民大会でも大会合言葉として使わせていただきました。今後も育成センターの活動に御協力をお願いします。

・常に生徒たちの向上を目指し頑張っておられる先生方に敬意を表します。今まで通り、ゆとりを忘れず身体に気を付けて頑張っていたいただきたいと思います。

・特に野球部の生徒が元気でいいですね！声も大きくはっきりしていて気持ちのいい挨拶をしてくれます。カバンが目印で、気持ちがいい1日にしてもらっています。

・新3年生がコロナ禍の中でも心に残る思い出が作れるように、行事が行えるようにしてあげてください。

・今年度はコロナ禍での教育活動について苦労されたと思います。生徒が不安にならないよう、ポストコロナ社会に向け学校運営をして頂けるようお願いいたします。